

社会福祉法人 北海長正会 55 ISSUE



安心からそして喜びに



二〇二三年度高齢者事業の方針等について

～安心からそして喜びに～

一・日常を取り戻す年度として

感染法上の位置づけが二類から五類に変わりまし
た。これまで感染防止優先の日常が続き生活に行動制
限が課せられ社会経済が疲弊していく日々を目にし、
現場ではコロナウイルスとの戦いで緊張を強いられ、
お客さまのご家族との面会や外出など行動制限を余儀
なくされ閉塞感を感じる日々が続いておりました。そ
の間施設、事業所でクラスターもありましたが幸いに
も長期化することもなく収束することができました。

五類に移行し面会や外出などの行動制限も緩和さ
れ、日常生活でのマスクの着用は個人の判断とされる
など、旅行やイベントなどが平常に戻りつつあります。
とは言えコロナに限らずインフルエンザも流行してお
り、気を緩めることなく地域や各事業所の感染情報を
共有し感染に十分気を付け、お客様に安心とともに喜
んでいたけるサービスに努めます。

二・サービスの質と人材確保について

労働集約型事業の一番の課題は人材確保です。あら
ゆる事業において人材募集は常態化しており人材確保
が難しい環境にあります。対策としては、まず福祉の
業務がかげがえのない魅力ある仕事であることのア
ピールを特に若い世代に行っていきます。次に介護に
係る資格が取りやすい法人であることをアピールし、
さらに外国人労働者の受け入れや現役を離れ退職され

た方の採用も考え戦力としていきます。人材確保が厳
しい状況を地域の方々にも理解していただき、職員や
ボランティアの確保についてご協力をいただく活動も
必要ではないかと考えています。

もっとも肝心なことは、今にも働いている者同士
のチーム力を大切にサービスに向かいます。職員は
新任をはじめ専門職としての経験が浅い職員と中堅・
ベテランと混在してチームを組んでおり、お互いがこ
れらの状況を理解し力量を補いつつチームとしての力
を発揮できるよう働きやすい働き甲斐のある職場環境
となるよう努めていきます。

三・超高齢地域の地域づくりに向けて

コロナ禍の三年余りウイルスへの警戒心が地域住民
のつながりを分断しました。高齢者にとつての三年五
月月は精神的にも身体的にもつらいものです。その余
韻はまだ残っており地域での活動に戸惑いは隠せない
ものです。法人としては、コロナを警戒しつつも地域
の日常を取り戻すためにできることを地域の方々とも
に進めていきます。

高齢による身体機能の低下はコロナ禍でさらに進行
したものと考えられます。特に団地地区の高齢化率は
五割に近づいてきており、この地域の介護予防に向け
た取り組みは喫緊の課題であり真剣に考えなければな
い環境となっています。人生二〇〇年時代を考える「北



社会福祉法人 北海長正会
理事長 三瓶 徹

広島市生涯現役地域づくり環境整備協議会」の住民
ワークショップにおいて健康寿命延伸のための取り組
みも検討されており、協議会と連携し法人としてでき
ることを住民とともに考えていきます。

四・第九期介護保険計画と次年度の事業計画について

今年度は三年毎に示される介護保険計画の最終年度
となります。この年度において第九期介護保険計画に
むけた方針が打ち出されることからそれに向け各事業
の次年度に向けた計画を検討していきます。

当法人の事業計画は中長期計画であるアクションプ
ランに基づき実践されることとなっています。今年度
はアクションプランの最終年度であり次期介護保険計
画（二〇二四年度～二〇二六年度）と整合性を図りア
クションプランの作成にあたります。人材確保が難し
いなかで各事業の横断的な連携によるサービスも検討
されていることから事前の情報を共有し法人としての
プランを策定していきます。一方サービス向上に向け
各事業においてお客様からアンケートを取り課題とな
るものもあればそれもプランに盛り込み、お客様に喜
んでいたける事業計画となるよう努めます。

「地域とのつながり」を大切にし、 お客様や地域の方々へ喜んでもらえるように」

～2023年 四恩園 各事業所の事業計画～

地域サポートセンター四恩園

北広島市富ヶ岡509番地31



特別養護老人ホーム

お客様、職員双方に一日一日の
日々の生活に活性と楽しみを

ここ数年事業所内で過ごす時間が多くありましたが、季節を感じる外出や催し参加、お客様、職員共に嬉しい時間を過ごしていきたいと思っています。

具体的取組として①入所時のご本人、ご家族の園での生活の意向確認。②事業所内での体調の確認・感染予防・医療相談・多職種連携。③地域活動への参加による「楽しい・嬉しい・美味しい」実現。④ご本人、ご家族、職員からの「やってみたい・行ってみたい」実現。⑤外部機関、地域資源、ボランティア・実習受入の実施。⑥季節を感じられる場所・食・催しへの参加・外出。⑦事業所内の心地よい空間整備、装飾、掲示物、音響整備。以上施設サービス課では取り組んでいきます。

(清水 孝修)



デイサービスセンター四恩園

自然に心と身体が動く事で、
お客様をより笑顔に

デイサービスセンター四恩園では、昨年度からデイホームさとみや特別養護老人ホーム四恩園と合同での行事（スィカ割りやもちつきなど）に取り組み、賑やかな雰囲気の中で人と人とのつながりを感じながら楽しむ時間を提供できました。今年は、昨年度の経験を活かして、企画をバージョンアップさせたいと考えております。お客様の笑顔（心の動き）と力（身体の動き）を通うことで自然に引き出せるようなプログラムを増やし、喜びを感じ、ワクワクする、「デイサービスの日が待ちきれない」という声が、ひとり、またひとりと広がっていく、そんなデイサービスセンター

四恩園になれるように職員一同取り組んでいきたいと思っています。

(吉田 匡貴)



デイホームさとみ

やりたい、行きたい、見たい、
食べたいを叶えられるように

お客様の希望を実現するためにチャレンジできる一年にしたいと考えています。昨年からフラダンスに挑戦し、盆踊りでも体を動かし、様々な音楽を取り入れた体操をしています。「体操するのなら楽しい方がいい。」というご要望にお応えして始めましたが、「衣装を着てみよう」、「お化粧をしたい」、「もっと違う曲で踊りたい」などやりたいことが増えてきました。何度も踊っているうちに、こんなに動けたかしら?!なんて事も（笑）。畑や庭仕事をしたい、エスコンフィールドに行きたい、とにかく美味しいものが食べたいという話が沢山出てきています。実行あるのみです！ お客様ご家族にも喜んで頂ける事を一番に考え、個別に柔軟に対応できるさとみとしてお役に立つ事ができるよう取り組んで参ります。

(深田 なつ恵)



地域交流ホームふれて

北広島市白樺町1丁目8番地2



地域交流ホームふれて

人と人とのつながり（ふれて・かた
る）から生きることの喜びを知ろう

地域交流ホームふれては、子どもから高齢者まで、また障がいの有無に関わらず、地域住民がそれぞれつながりを持つことによって、お互いを尊敬し尊厳をもって安心して生活することができる地域社会（共生社会）を目指していきます。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い多くの方がつながりの希薄化から生きづらさを感じました。ICTを活用した新しいつながりの構築や既存の地域課題に対する解決の糸口を住民と一緒に模索し、新しいチャレンジを仕掛けていきます。



また北広島市生涯現役地域づくり環境整備協議会との連携で、人生百年時代、自らの夢やロマンを形にして人生を楽しむ続けることができるようにコーディネートしていきます。
（小野崎 ひとみ）

デイホームかたる

お客様の在宅生活が、いきいきと張りのある豊かな毎日となるように

新型コロナウイルスによる行動制限の緩和もあり、今年度はお客様に楽しみを発見して頂けるよう、活動やアクティビティの提供に努めて参ります。

まずデイホームかたるをご利用頂くことで、①お客様一人ひとりに合った介助を必要に応じて行う事で、移動や身の回り動作の機能低下を予防する。②体操など各種の運動に取り組んで頂き、体力面の維持・向上を図る。③感染対策を行いつつ外出行事等の楽しみを創出する事に取り組んでいきます。



地域交流ホームふれてという交流の拠点の中にあるデイサービスという特性を活かし、市民スタッフの皆さんをはじめさまざまな人や団体とつながりを持つ機会も、今年度は多くしていきたいと考えております。
（林 晃市）

みなみ高齢者支援センター

地域で支援の必要な方が気軽に相談できる窓口となるように

みなみ高齢者支援センターは、六十五歳以上の方の生活に関する総合相談をお受けする窓口です。日頃より地域の皆さんから介護保険サービスの利用や退院後の在宅生活に関する相談や、家族介護や健康についてのお悩みをお聞きしております。

新型コロナウイルスによる三年間の行動制限は、心身の機能低下に繋がってしまう高齢者の方々も多くいらっしゃる、現在もフレイルでお悩みの方々から相談を受ける事も度々見られます。そこで今年度は、以前にも行っておりました地域の老人クラブやサークル活動、町内の活動にも積極的に参加させて頂き、健康寿命を延ばす一助となる講話や、昨年度より開始した体力測定



会を中心に、より多くの北広島団地地区の皆様とふれあっていきたくて考えております。
（吉田 忠司）

地域サポートセンターともに

北広島市緑陽町1丁目2番地



地域サポートセンターともに

楽しいところに人は集まってくる

この三年間は新型コロナウイルスによる制限により安全・安定のみを強いられてきました。今年度は「楽しいところに人は集まってくる」をキーワードに、安全・安定に楽しみを加えてお客様、ご家族、地域の方々とともに人生百年時代に向けて動き出す一年とします。

ともに市民スタッフによる喫茶コーナーの運営やイベントの開催、地域食堂、地域体操、ともにの集い、畑づくり等を継続していきます。又、厚生労働省より受託している生涯現役地域づくり環境整備事業による健康寿命を伸ばす取り組みや、シルバー世代や子育て世代を中心とした参加・就労・起業等の取り組みを通して地域の方々・星槎道都大学・市役所・企業等とのつながりをつくっていきます。そして、これらを楽しみながら取り組むことで沢山の方々が集まり、そこで楽しい仲間を増やしながら取り組みを活性化させていきたいと思っています。



(向山 篤)

複合型サービス

住み慣れた自宅での暮らしを通い・訪問・泊りで個別にサポート

私達複合型サービスは北広島市内唯一の事業所です。複合専任のケアマネジャーと一緒にお客様に必要なサービスを考え、デイサービス、ヘルパー、訪問看護、ショートステイをご利用して頂きます。いつもと同じ場所、いつもと同じ職員がお客様の看護と介護をいたします。

看護も介護も必要…、その為の相談もしなくては…、急な体調変化も心配…など、日頃の相談からサービスご利用まで、いつでも身近で迅速にご対応ができます。できる限りご自宅での暮らしを続けていきたいという思いを、一緒に考え支えていきたいと思っています。特に食事介助・入浴介助・排泄介助と言った三大介助は、在宅介護をされる中でも特に大変な事だと思いま



す。複合型サービスではご家族の介護負担の軽減も考えながら、今年度この三大介助について今まで以上に力を入れて行きたいと考えております。

(奥山 智直)

サービス付き高齢者向け住宅しおん

住んでますますお元気に！

健康体操で身体を安定させ、ウェルネス体操で楽しみながら身体を動かし、つむらさんやヤクルトさんでお買い物をし、喫茶コーナーや地域食堂で地域の方や友人と交流をする。時にはお部屋でゆっくり読書をし、市民スタッフの皆さまにご協力いただいている花壇や畑を愛でる。しおんにお住いのお客様は日々お一人お一人が好みのペースで過ごされています。今年度は地域のお祭りが再開される等、イベント参加の機会が増える予定になっています。私たちは、お客様がしおんに住むことでますますお元気に過ごせるよう、日々の健康観察と環境整備の徹底はもちろん、ご家族や、ケアマネジャー、訪問診療・看護・リハビリ、訪問介護・入浴、通所サービス等、お客様の生活を支える方々とのこまめな連携に努めていきます。



(玉邑 亜天)

ホームヘルプサービスステーション

「その人らしい生活」を在宅で継続するために

ヘルパー歴二十年以上近いベテランがそろっているステーションですが、最新の情報や技術を習得するため、研修など自己研鑽は欠かせません。毎年個人研修のテーマを決め、年度末には発表会を開催しています。「効率よく片付けのコツ」「突発事故の対応」「もつたないと捨てられないの違い」等々様々な視点でヘルパーは活動しています。ヘルパーの若返りも重要な課題です。ホームヘルパーの仕事は「お手伝いさん」ではありません。

専門技術を十分に発揮できる介護のプロです。広くホームヘルパーの魅力をお伝えできるようにホームページ等を充実できるようにがんばります。

(吉永 美香)



訪問看護ステーション

地域に開かれたホームナースとして

住み慣れた場所（家）で安心して暮らせるように、医療のつながりを作るホームナースが訪問看護師です。年齢や病気に関わらず、医師の許可があれば訪問が可能です。また、地域に開かれたナースとして「ともに地域の保健室」を定期的に開き、ちょっとした不安や、これって何科？など聞けそうで聞けなかったことを保健室からアドバイスができます。

病院ではドキドキ緊張して話せないけど、ここなら気軽に話せるかも：優しいナースが笑顔でお待ちしております。

(吉永 美香)



居宅介護支援事業所

一人の人として周囲に受け入れられ、尊重されていることが感じられるケアを

認知症になると、理解力・判断力が低下して自分のことを自分で決められなくなることがあります。しかし認知症の人は、周囲の人に「認知症の人だから、話にならない」「わからないから、かまわない」と自分の存在を軽んじられる態度を怖れています。わたしたちは、認知症の人がどのように感じ、どのような思いでいるか考えることを重視します。意思決定ができないとされてきた人でも、周囲のサポートを受けながら、能力に応じて意思決定をするプロセスを大切にし、支援者による「代行決定」は最後の手段とするよう支援します。

わたしたち法人の基本理念には「『人間としての尊厳』が保たれるよう」とあります。パーソンセンタードケアは、「一人の人として、周囲に受け入れられ、尊重されること」（パーソンフード）を最も重要視する、としています。わたしたちは、お客様やご家族、周囲の方たちお一人おひとりが、そう感じられるような関係形成を基軸とした支援を大切にしたいと考えています。

(新沼 右文)

グループホーム

楽しみがある、安心できる、
居心地がよいと感じて頂けるように



お客様一人ひとりに楽しみ、安心、居心地の良さを実感して頂くため、ご家族と一緒にイベントを考え楽しい時間を大切にしています。昨年末は三年ぶりに「メリークリスマス！」とお客様の娘婿さんがサンタクロースに扮し、プレゼントを持ってきてくれました。ともにの厨房で作った手づくりプリンや、色とりどりのケーキを食べて「これ、おいしいね」とみんなでにっこり。最後は一人ひとり一緒に記念撮影。「サンタさん、また来年も来てね」と、手を振る姿がとても微笑ましい。いつものなじみの関係があるから、サンタさんも「また、会いましょう！」自然と笑顔になり力強い握手を交わす。

(皆木 有子)

給食サービス課

目で楽しみ、口で味わう栄養からの
体調維持を



四恩園・ともに・かたるの給食では、健康な身体を作る生活食、治療からの回復をはかる治療食、心と体の栄養や喜びを提供する行事食と言った三つの食事形態を柱に、お客様本位で食事提供しております。

ともにでは昨年七月から始まった地域食堂にて、地域の方々にもお食事を提供し、ご好評を頂き皆様楽しまれる姿は私達給食サービス課の職員も励みになっております。今年は三年ぶりに地域のお祭りも再開される事から、コロッケやポテトなどの出店を通じて地域の方々とのふれあいを楽しみにしている所です。食事を通じ、お客様や地域の方々へ笑顔と元気を届ける事ができるよう、職員一丸となり頑張っていきたいと思っています。

(西野 聡)



社会福祉法人 北海長正会 2022年度決算概要

(自) 令和4年4月1日 (至) 令和5年3月31日

(単位: 円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	760,006,000	758,464,255	1,541,745
		老人福祉事業収入	55,036,000	56,184,455	△1,148,455
		障害福祉サービス等事業収入	599,842,000	596,303,697	3,538,303
		医療事業収入	22,294,000	23,066,545	△772,545
		その他の事業収入	25,354,000	27,787,715	△2,433,715
		経常経費寄附金収入	1,752,000	4,002,238	△2,250,238
		受取利息配当金収入	18,000	2,025	15,975
		その他の収入	7,057,000	10,629,428	△3,572,428
	事業活動収入計(1)		1,471,359,000	1,476,440,358	△5,081,358
	支出	人件費支出	1,089,452,000	1,108,256,526	△18,804,526
		事業費支出	224,756,000	228,470,808	△3,714,808
		事務費支出	88,556,000	86,044,676	2,511,324
		利用者負担軽減額	277,000	255,742	21,258
		支払利息支出	2,614,000	2,576,197	37,803
		その他の支出	16,290,000	16,374,976	△84,976
	事業活動支出計(2)		1,421,945,000	1,441,978,925	△20,033,925
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		49,414,000	34,461,433	14,952,567	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	1,937,000	1,937,000	0
		固定資産売却収入	385,000	396,000	△11,000
	施設整備等収入計(4)		2,322,000	2,333,000	△11,000
	支出	設備資金借入金元金償還支出	36,321,000	36,318,000	3,000
		固定資産取得支出	9,365,000	11,113,832	△1,748,832
		ファイナンス・リース債務の返済支出	7,155,000	6,993,229	161,771
	施設整備等支出計(5)		52,841,000	54,425,061	△1,584,061
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△50,519,000	△52,092,061	1,573,061	
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	56,743,000	73,223,102	△16,480,102
		その他の活動による収入	550,000	640,000	△90,000
	その他の活動収入計(7)		57,293,000	73,863,102	△16,570,102
	支出	長期運営資金借入金元金償還支出	7,528,000	7,528,000	0
		積立資産支出	28,735,000	28,791,165	△56,165
		その他の活動による支出	673,000	672,660	340
	その他の活動支出計(8)		36,936,000	36,991,825	△55,825
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		20,357,000	36,871,277	△16,514,277	
予備費支出(10)		19,252,000	—	19,252,000	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		0	19,240,649	△19,240,649	

前期末支払資金残高(12)	275,638,101	275,892,013	△253,912	
当期末支払資金残高(11)+(12)	275,638,101	295,132,662	△19,494,561	

●発行者 社会福祉法人 北海長正会

●住所 〒061-1153

北広島市富ヶ岡509-31

●TEL (011)373-6655

●FAX (011)373-6611

●ホームページ <http://www.shionen.or.jp>

●E-mail tokuyo@shionen.or.jp

●編集発行 広報委員会

●編集発行責任者 理事長 三瓶 徹

●発行日 2023年9月

